副主任コラム１月号

副主任　　澤井　良子

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

目の前にいる子ども達の【今】を、１日１日を大切に今年も保育していきたいと思います。

１１月終わりの土曜保育での事です。その日は、雨が降ったり止んだりしてましたが、「園庭行きたい」「西の広場行きたい」と子どもたちは思い思いのしたいことを朝の集まりで伝えてくれていました。大体外遊びが多いのですが、２歳児のＨ君が「クリスマス作りたい（製作）」と発言してくれたことから園庭や西の広場に出て、葉っぱや実を拾うことでみんなのしたいことが決まりました。土曜保育は、週にもよりますが０歳児から５歳児までと幅広い異年齢です。一人ひとつの製作は難しいかな…と思っていましたが、みんなで拾ってきたものを一つの作品として作ることとなり、枯れ葉や実でのオーナメントができました。このままでは飾りが寂しいな…と思った私は、今度は幼児クラスの製作コーナーにもっていくことにしました。製作を得意とする子たちが寄ってきて、「これ貼っていい？」とお花紙やカラーテープで飾り付けてくれて綺麗なオーナメントとなりホールに飾りました。この出来事の中で、２歳児のＨ君が製作を案としてあげてくれた事、大きい子のいる中でも自分の意見が言えると言うこと、そしてクリスマスと言う具体的な作りたい物が決まってる事。これは、日々の保育の中で、各年齢の保育士が、個々の思いを受け入れ、自由に言える環境や関係性であるからではないかと私は思いました。

そして【自分の思いを言う】という事では、子ども同士の喧嘩の場面でも見られます。各年齢によって、喧嘩の理由やそこで学ぶ事も変わりますが、成長段階として０・１歳児までのトラブルは、遊んでいるときに自分の遊んでいた物に飽きて誰かが使っている物が『使いたいな』と思った時に、取り合いが起きることが多いです。２歳児になると『取った・取られた』『僕の・貸して』と言葉で伝えようとしますが、うまく伝えられずトラブルになりますが、相手に物を渡してあげる・順番を守るなどの成功体験を積む事が大事で、その中でお互いの気持ちを簡単な言葉で伝え仲裁となる保育士の関わりも大切となります。３・４・５歳児になると『社会的な側面と自分の気持ち』が共存し『自己中心性』から抜け出して少しずつ相手を思いやることもできるようになってきますが『こうしたら嬉しい・こうすれば悲しい』という相手を考えたうえでのトラブルも起きてきます。先日もコーナーで遊んでる様子を見ていると、言い合い・叩く・蹴るなどのトラブルも所々で見ました。しばらく離れた所から見て、これは…と思ったので「どうしたの？」と聞いてみました。最初はお互い自分の主張をして相手の嫌なことを言い合っていましたが、暫く聞いていると相手の思いにも気づき始めた口調に変わってきました。私の中で答えは出ていましたが、子ども同士で解決する力を身に付けて欲しいので、お互いの気持ちを伝えあえるかな？と感じたら「あとは自分たちが納得いくようにいっぱい話してごらん」と伝え離れた所から見守ることにしました。すると、冷静になったのかお互いの思いを言い謝って仲直りしていました。子ども達にとっての喧嘩も相手の気持ちを知り・自分の思いも知ってもらう意味では大切な成長過程です。手を出すことはいけないことと伝えつつ、私たちはそこだけでなく前後のやりとりがある事を知り、子ども自身が考え納得し解決に導く保育していく必要があります。今しかできない人間関係のトレーニングをたくさん経験し、相手の思いも自分の思いも大切にできる子ども達になって欲しいと思っています。